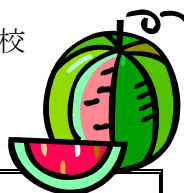


- 【文部科学省】 31~33教育課程特例校(徳育科)
- 【都教育委員会】 28~オリンピック・パラリンピック教育推進校 28~学校と家庭の連携推進校
29~学校マネジメント強化モデル事業実践校
- 【市教育委員会】 25~武蔵村山市N I E推進校 26~「徳育科」推進モデル校
31 小中一貫教育推進校(五中校区) ラオス・パチュドン校姉妹校



 <p style="font-size: 2em; font-weight: bold; margin: 0;">八小だより</p> <p style="font-size: 0.8em; margin: 0;">徳育科のパイオニア コミュニティスクール</p> <p style="font-size: 0.8em; margin: 0;">武蔵村山市立第八小学校 令和元年7月19日</p> <p style="font-size: 0.8em; margin: 0;">http://www.city.musashimurayama.lg.jp/mmced8s/index.html</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">教育目標</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">◎ 考える子 ○ 思いやりのある子 ○ やりとげる子 ○ 礼を重んずる子</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">行動目標</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">わけをそえて話すことができる子 教室で話しているのは一人</td> </tr> </table>	教育目標	◎ 考える子 ○ 思いやりのある子 ○ やりとげる子 ○ 礼を重んずる子	行動目標	わけをそえて話すことができる子 教室で話しているのは一人
教育目標					
◎ 考える子 ○ 思いやりのある子 ○ やりとげる子 ○ 礼を重んずる子					
行動目標					
わけをそえて話すことができる子 教室で話しているのは一人					

幸せな人生を歩んで欲しいと願う

校長 牧 一彦

この3連休中に、私が20年前、青梅の小学校で5・6年生の担任として2年間指導した子供たちから連絡があり、飲食を共にする機会を得ました。年齢は30~31歳。一人一人が小学生だった当時のことを振り返りつつ、みんな生き生きと近況を語ってくれました。会計士として都内の会計事務所で働いている子、コインランドリーの洗剤や洗濯機を扱う営業をしている子、医療施設で検査技師をしている子、自動車の部品メーカーで経理の主任をしている子、中学校の数学の先生をしている子、と進路は様々です。また既に結婚し子供を産んだ子や父親になっている子もいました。私がこの子供たちの教育に携わったのはわずか2年間であり、その時に指導したことがどのように今の彼らに生かされているのかは知る由もありません。なぜなら、彼らを教育したのは、幼・保・小・中・高の教員はもちろんのこと、何より家庭における父母であり、自分の与えた影響などごく僅かであると考えられるからです。ただ一つ言えることは、20年経った今、一人一人が「世の中の役に立つ人になっている」こと、「社会の形成者として活躍している」ということくらいです。そして何よりも一人一人が幸せそうに生活している姿を見て、とても嬉しく思いました。

私たち教員は、教育の目的である「人格の完成」を目指し、目の前の児童に日々勉強を教え、生活指導をし、人としての生き方について考えさせるなどの教育活動を行っていますが、その結果、それらがその子にどのような影響を与え、どのような大人に成長したかを見届けることは極めて困難です。それでも私たちは、一人一人の子供が将来立派な大人に成長し、幸せな人生を歩んでくれることを信じて、日々指導に当たっているのです。

本日第1学期の終業式を行い、一人一人の児童に「のびゆく子(通知表)」を渡しました。1年生から6年生までの担任一人一人が、受け持ちの子供の学習の状況、生活の様子等を把握し、できるだけ具体的に、「良くできた点」と「改善すべき点」について記述しています。どの教員もこの通知表作成には多くの時間と労力を費やし、「その子が立派な大人に成長するために何が必要か」、「更にどんな力を伸ばすことが良いのか」等、様々な面から考察し、思いを込めて作成しています。ぜひ、御家庭でもお子さんと一緒によく御覧になり、夏休みに向けた学習の計画や生活のつくり方について話し合ってみてください。

8月29日(木)の授業開始日には、一回り成長した子供たちの姿を見るのが楽しみです。地域・保護者の皆様におかれましても、暑い日々が続くと思われませんが、どうぞ御自愛ください。

「牧先生の授業は教科書じゃなく、いつも手作りのプリントを使ってた。」

「まず自分で考えてごらんと言われた。」

「あのお説教部屋で、いつも最後まで話を聞いてくれたのが嬉しかった。」

青梅の教え子たちとの語りいの中で、子供たちは口々に当時の思い出を話してくれました。20年も前のことを、覚えていてくれたことに涙が出そうになりました。

昨今、小中学校における教員の仕事量や働き方について話題になり、それは「限りなくブラック」であるとも言われています。しかし、こういうひとときを味わうことができるのは、実は教師だけなのです。